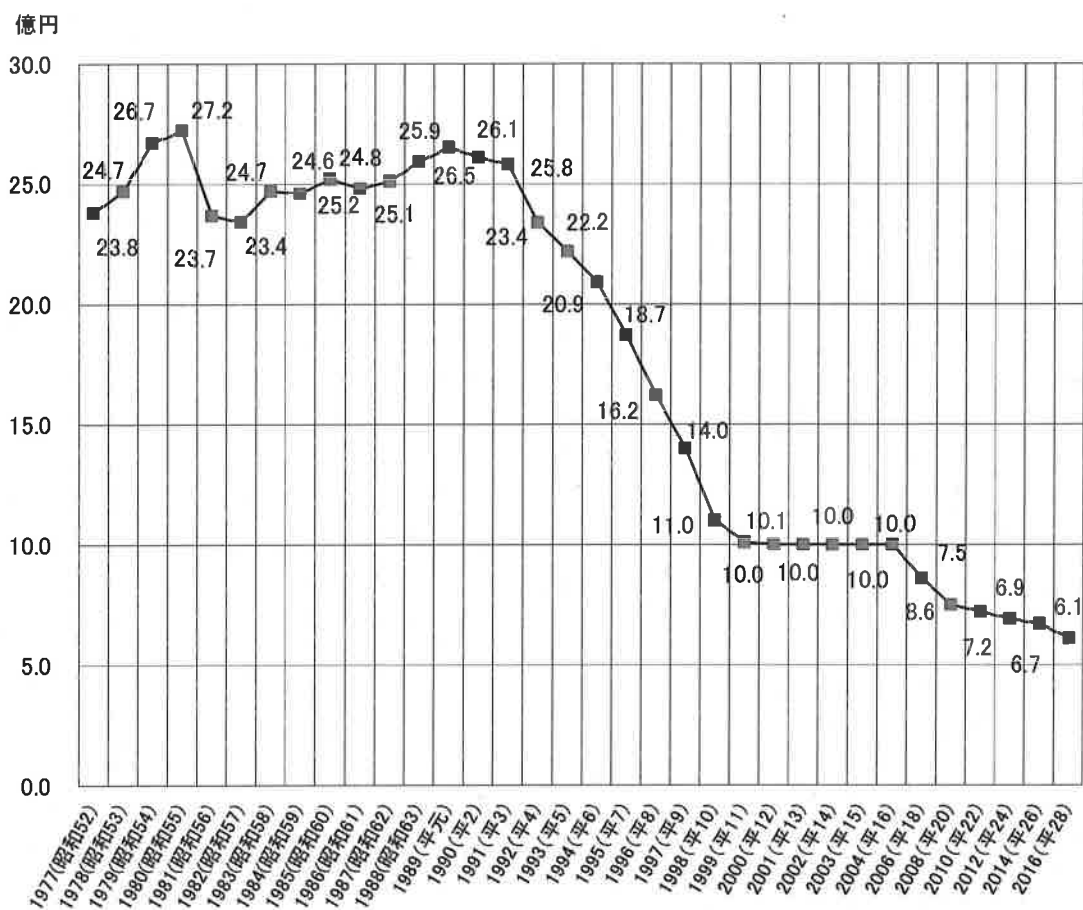


【漆器販売額の推移】 (単位:千円、%)

年	販売額	前回比
2008(平20)	752,612	—
2010(平22)	716,594	95.2
2012(平24)	690,238	96.3
2014(平26)	670,871	97.2
2016(平28)	618,313	89.6



【品種別販売額】 (単位:千円、%)

品種	2016年(平成28年)		2014年(平成26年)		前回比
	販売額	構成比	販売額	構成比	
盆 類	138,820	22.5	233,463	34.8	59.5
箱 類	75,300	12.2	53,212	7.9	141.5
室内調度品	68,247	11.0	61,523	9.2	110.9
茶 道 具	14,362	2.3	21,822	3.3	65.8
膳 類	609	0.1	1,775	0.3	34.3
盛器・その他	320,976	51.9	299,077	44.5	107.3
計	618,313	100.0	670,871	100.0	92.2

※その他…文具、食器類、新商品、アクセサリ等。

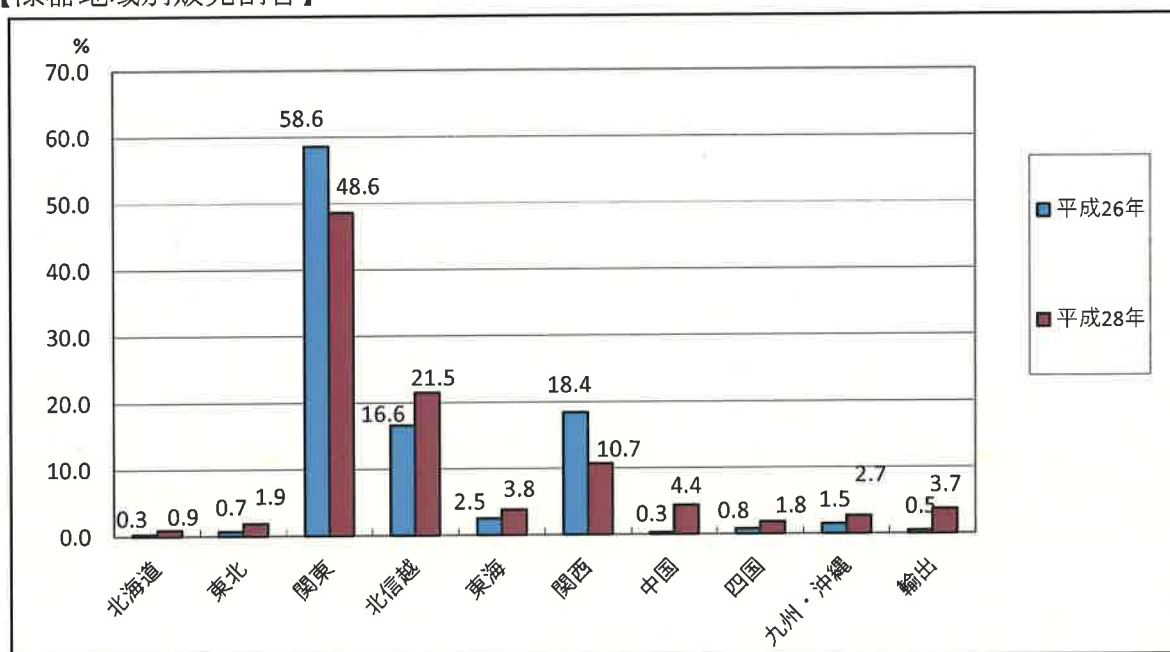
高岡の漆器

【品種別販売額及び割合の推移】

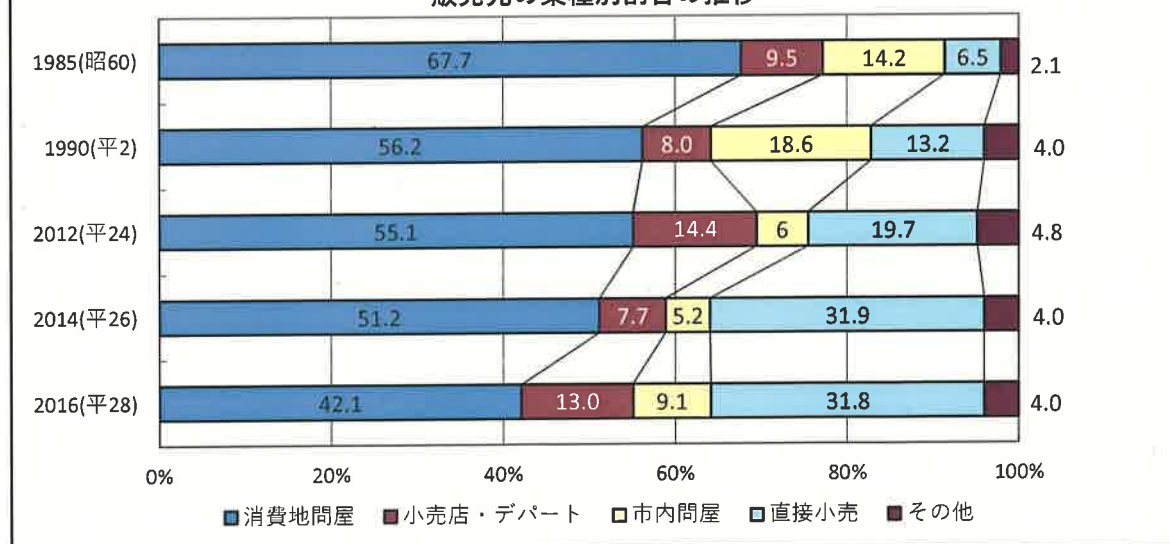
(単位:千円)

品種	2016(平28)		2014(平26)		2012(平24)		1990(平2)		1985(昭60)	
	販売額	構成比	販売額	構成比	販売額	構成比	販売額	構成比	販売額	構成比
盆 類	138,820	22.5%	233,463	34.8%	277,364	40.2%	981,713	37.6%	1,139,324	45.3%
箱 類	75,300	12.2%	53,212	7.9%	66,592	9.6%	543,075	20.8%	455,227	18.1%
室内調度品	68,247	11.0%	61,523	9.2%	49,049	7.1%	216,708	8.3%	314,383	12.5%
茶 道 具	14,362	2.3%	21,822	3.3%	33,100	4.8%	190,598	7.3%	193,660	7.7%
膳 類	609	0.1%	1,775	0.3%	4,316	0.6%	148,823	5.7%	115,693	4.6%
盛器・その他	320,976	51.9%	299,077	44.6%	259,817	37.6%	530,021	20.3%	296,778	11.8%
計	618,313	100.0%	670,871	100.0%	690,238	100.0%	2,610,938	100.0%	2,515,065	100.0%

【漆器地域別販売割合】



販売先の業種別割合の推移



【製法別事業所数と生産額】

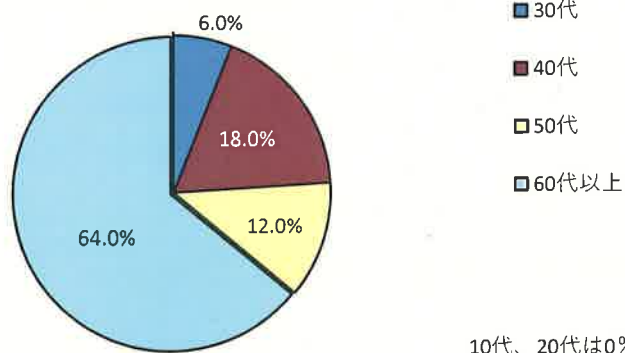
(単位:千円、%)

製法	2016年(平成28年)			2014年(平成26年)			前回比	
	事業所数	年間生産額	構成比	事業所数	年間生産額	構成比	事業所数	年間生産額
木 地	3	24,000	18.5	2	16,900	13.6	150.0	142.0
彫 刻	2	4,074	3.1	1	475	0.4	200.0	857.7
青 貝 等	4	33,378	25.8	3	24,840	20.1	133.3	134.4
塗 り	15	68,128	52.6	14	81,606	65.9	107.1	83.5
計	24	129,580	100.0	20	123,821	100.0	120.0	104.7

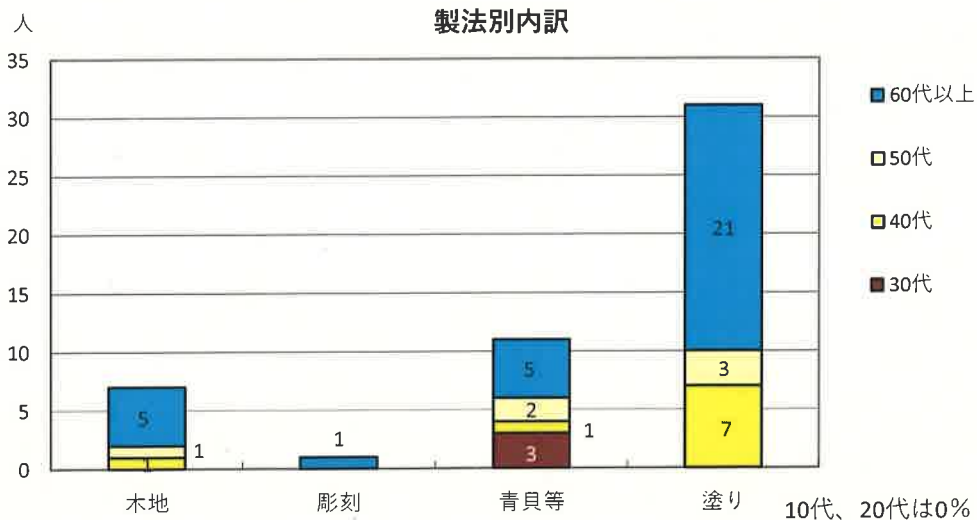
【事業所数と従事者数】

業種		2016年(平成28年)		2014(平成26年)		前回比(%)	
		事業所数	従事者数	事業所数	従事者数	事業所数	従事者数
問屋		12	74	12	72	100.0	102.8
製造	木 地	3	7	2	4	150.0	175.0
	彫 刻	2	1	1	1	200.0	100.0
	青 貝 等	4	11	3	9	133.3	122.2
	塗 り	15	31	14	33	107.1	93.9
計		36	124	32	119	112.5	104.2

製造業従事者の年齢構成

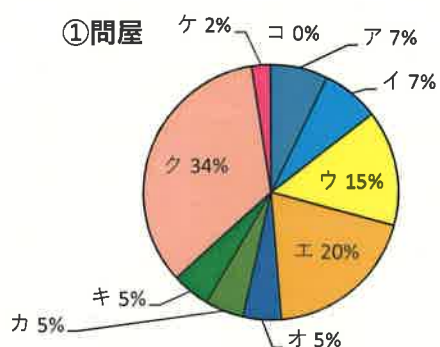


製法別内訳

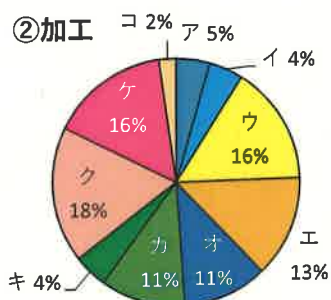


【意識調査について】

1 今後の方向性



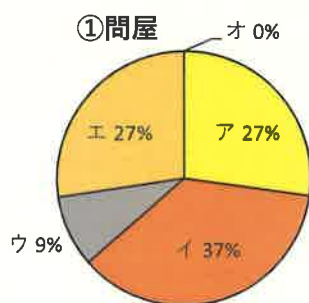
- ア 伝統技術と融合させる新技術の導入
- ウ 新商品の開発
- オ 工房見学・体験などの産業観光の受け入れ
- キ 事業の効率化による経営改善
- ケ 既存のままでよい



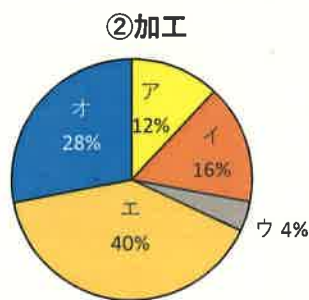
- イ 異素材の活用
- エ 販路の開拓
- カ 文化財などの修理事業
- ク 技術継承などの後継者育成
- コ その他

問屋、加工業共に、一番回答が多かったのは、「技術継承などの後継者育成（問屋34％）（加工業18％）」となっている。続いて多いのは問屋で「販路の開拓（20％）」、加工では同率で「新商品も開発（16％）」、「既存のままでよい（16％）」となっている。

2 後継者について



- ア このまま仕事を継ぐ予定
- イ このまま仕事を継ぐか未定
- ウ 誰かに会社を継いでほしい
- エ 自分の代で廃業してもよい
- オ 自分の代で廃業してもよいが、技術は誰かに継承してほしい



問屋は、「仕事を継ぐか未定（37％）」の回答が多くなってきており、続いて「自分の代で廃業してもよい（27％）」「このまま仕事を継ぐ予定（27％）」との回答が続いている。加工業は、「自分の代で廃業してもよい（40％）」との回答が最も高くなっており、続いて「自分の代で廃業してもよいが、技術は誰かに継承してほしい（28％）」となっている。

高岡銅器と同様に従事者の高齢化が進む中、高岡漆器の繊細な伝統技術の継承のための早急な対応が必要である。